

研究の国際化の推進

～海外拠点を活用した地域・文化を越えた交流の創出～

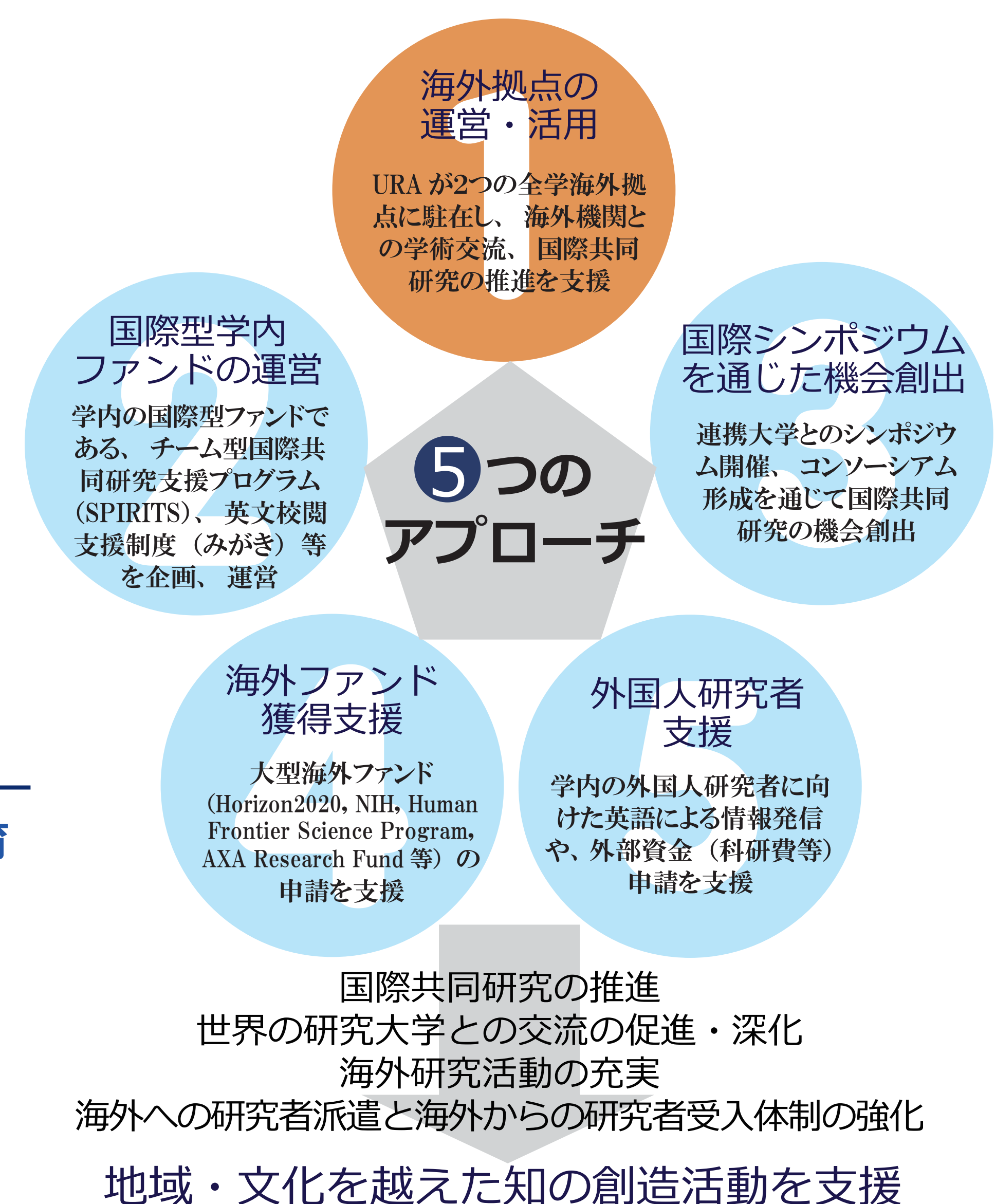
鈴木環・鮎川慧・大澤由実・藤枝絢子・吉岡佐知子・若松文貴
園部太郎・神野智世子（以上、京都大学 学術研究支援室 国際グループ）

★KURA 国際グループの活動

京都大学学術研究支援室 (KURA) の国際グループは、研究の国際化を推進しています。

「**地域・文化を超え**」ながら **Connecting Research World** を目指し、「**国際共同研究の推進**」、「**世界の研究大学との交流の促進・深化**」、「**海外研究活動の充実**」、「**海外への研究者派遣と海外からの研究者受け入れ体制の強化**」の4つのミッションを掲げ、5つの具体的なアプローチ（右図）を行っています。

その中から、京都大学に特有な事例として、京都（KURA）と海外拠点（欧州、ASEAN）に滞在するURA が連携して国際共同研究を支援する事例を紹介します。



京都と海外拠点を有機的につなぐ URA の研究支援

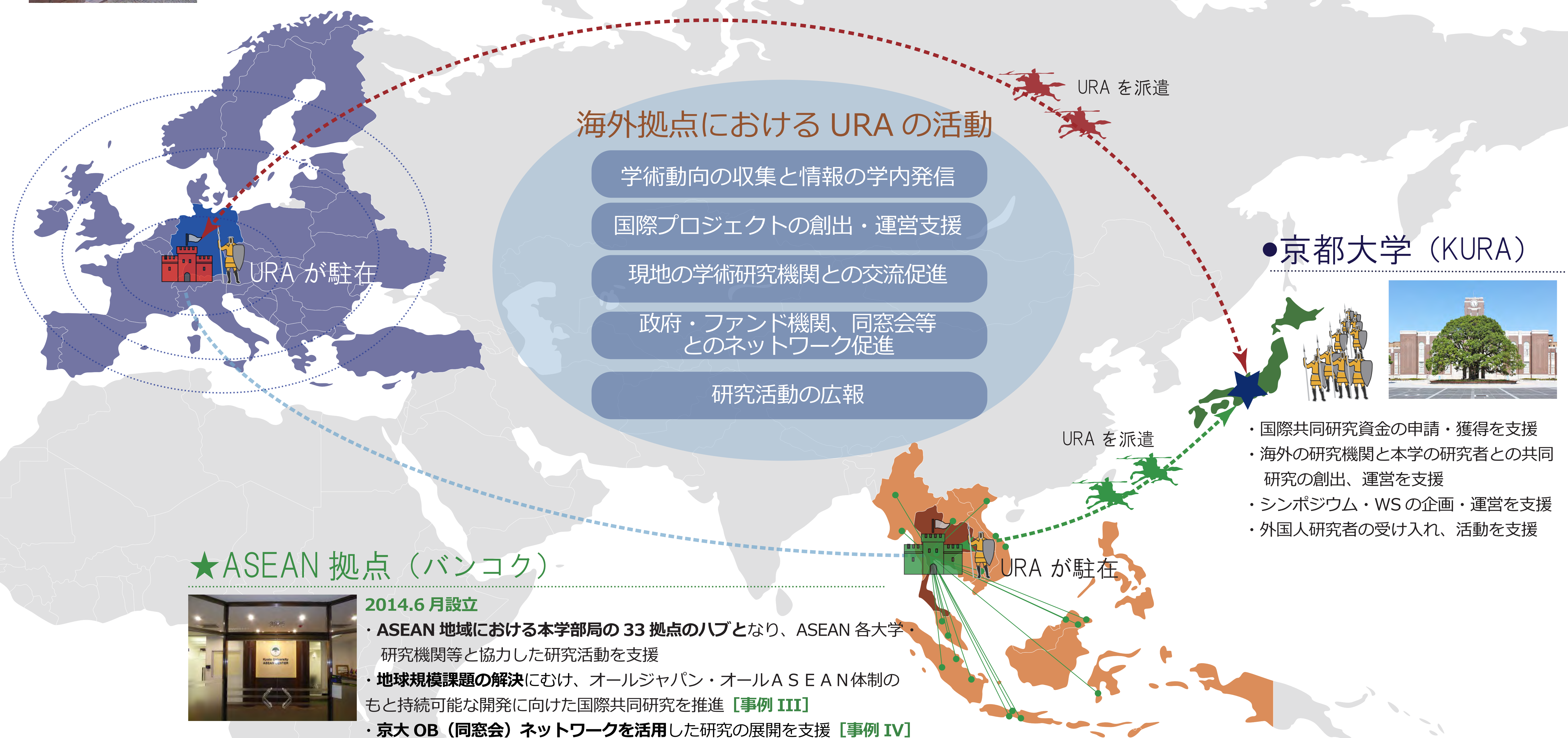
京都大学は、欧州（ハイデルベルク）と ASEAN（バンコク）に全学の拠点を設置し、**研究活動支援、教育活動支援、教職員・学生の国際化の推進、広報・社会連携・ネットワークの推進**を進めています。
2つの**海外拠点**に URA を長期派遣し、京都と現地の双方から研究の国際化を推進しています。

★欧州拠点（ハイデルベルク）



2014.5月設立

- ・ハイデルベルク大学との相互協力の下、双方のキャンパスにオフィスを設置
- ・欧州全域を対象に、**日欧の研究者交流、共同研究を支援**【事例Ⅰ】
- ・**HeKKSaGOn**（日独6大学連携ネットワーク）を基盤とした交流を推進【事例Ⅱ】
- ・国際シンポジウム、ワークショップの企画・運営を現地支援



★活用事例

●I 日独ジョイントレクチャー (Japan-Germany Joint Lecture)



京都大学とハイデルベルク大学の双方の海外拠点の共催により、研究者に講演機会を提供。京都・ハイデルベルクそれぞれ2～3か月毎にレクチャーを開催

日独の研究者交流の活性化・可視化に URA が貢献

●II HeKKSaGOn (日独6大学連携ネットワーク)



ハイデルベルク大、カールスルーエ工科大、ゲッティンゲン大、東北大、大阪大、京大からなるネットワーク9つの研究領域のワーキンググループが活動。欧州拠点をリエゾンオフィスとして URA が交流支援

日独の研究者交流の促進、共同研究の推進、サマースクール開催の円滑化に URA が貢献

●III JASTIP (Japan-ASEAN Science, Technology and Innovation Platform)



第4回 JASTIP シンポジウム
—Biomass to Energy, Chemicals and Functional Materials—
2017年7月

2015年度 JST 国際科学技術共同研究推進事業「国際共同研究拠点」の申請を URA が支援し採択
↓
タイ、インドネシア、マレーシアにそれぞれ「環境・エネルギー」、「生物資源・生物多様性」、「防災」の3分野のサテライト拠点を設置
国際共同研究の現地展開に URA が貢献

●IV 東南アジアネットワークフォーラム



第6回フォーラム
国立ブラウウィジャヤ大学（インドネシア、2017年3月）

京大の元留学生在東南アジア各地で同窓会を組織。東南アジアフォーラムが2007年に発足。2014年よりフォーラムの定期開催を URA が支援

現地で最新の研究成果の発信と現地社会への還元に URA が貢献